

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	プレステック株式会社		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	令和3年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境 ・地域行事への積極的な参加により地域とのつながりを持つ ・畑仕事で収穫した野菜でのおやつ作り等実施し自宅にいる時のように過ごす ・外部からのボランティアを受け入れ楽しく過ごす時間を設ける ・停電に備え電源確保のため自家発電装置を2台設置している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、町(旧山形村)の中心部に位置し、近くに駐在所、消防署、診療所、地域包括支援センターなどがあり、コロナ禍にあつて、相互に連絡を取り合い、医療、福祉、防災などの対策に万全を期している。また、事業所では周辺の清掃活動などに参加するなど、地域との連携を大切にしている。運営にあたっては、法人の理念や運営方針のもと、職員ごとの目標を定め、施設内に掲示し、業務の充実ほか、職員の研修を支援するなど、能力のアップによる介護サービスの向上に努めている。また、職員会議などでの意見、提案を受け、業務の改善や施設の整備のほか、利用者の個性を大切に、寄り添い、意向を把握し、連絡ノートなどを通じて利用者の状況を職員間で共有し、きめ細かな介護サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年9月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の方針・理念を職員全員で共有し、その実践・実現に努めている。	事業所の運営主体は変わったが、法人の理念や運営方針の基本的事項に変更はなく、職員全員が理念、方針を理解してケアに当たっている。職員一人一人の目標を顔写真とともに掲示し、高い意識の下で業務の充実に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため各種行事を実施できないため、早期の終息を願っている。	コロナ禍のため、利用者も楽しみにしていた地元出身の元力士を招いた住民参加のイベントが中止になるなど、地域としてお祭りを皆で楽しむことが出来ない状況にある。そのような中でも、地域との繋がりを大切に、清掃活動に参加している。近所の方から柿の差し入れがあり、職員と一緒に干し柿を作ったばかりとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同様、コロナ禍のため実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため会議を開催できないため、おたよりを発送し施設の様子をお知らせしている。	運営推進会議の対面開催が出来ないため、各委員に文書を送付して意見を求めている。委員に地域包括支援センターの職員や元消防職員の方もおり、必要なアドバイスをお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の支援センターケアマネ等と電話による情報交換を密にしている。	利用者へのコロナワクチンの予防接種を地域包括支援センターの調整により実施している。市の広報は、町内会から届けられる。各種行政情報は、地域包括支援センターや広域連合、市から入手している。コロナ禍のため、家族の希望もあって要介護認定申請を職員が代行しているが、市でも状況を熟知して配慮してもらおうなど、協力関係が築かれている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業開始時から現在まで身体拘束は行っていない。 身体拘束適正化委員を中心に、スピーチロックなどの何気なく出てしまうものについて、勉強会で繰り返し取り上げることで、職員全体で共有できるように開催し、併せて回覧での周知に努めている。	職員6名による委員会を2ヵ月ごとに開催し、新聞、インターネットの最新情報や他事業所での事例など関係資料を収集し、職員間で協議のうえで業務に反映させている。特にスピーチロックの防止には、万全を期している。身体拘束の事例は無く、移動確認のセンサーも使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の際、勉強会を行い何が虐待にあたるのか、具体例を挙げて周知を行い、職員同士での共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に該当する方はいないが、制度内容については、今後も機会を捉えてその理解、周知に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解いただけるよう、丁寧にゆっくりと説明し、納得して同意いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者・家族の意見を何気ない会話から引き出すよう努めている。 外出希望には、コロナのこともあり思うようにならないが、近所の畑へ散歩や花見ドライブなど行っている。	家族の面会を禁止としているため、行事や利用者の生活の様子を写真撮影し、裏面に職員手書きのコメントを添えてお知らせしている。家族からは感謝の手紙が寄せられている。利用者から手伝いや散歩などの希望があり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議等で意見交換を行い、良いことは取り入れ運営に反映させている。	職員との意思疎通には特に配慮しており、毎月の職員会議のほか、定期的に個人面談も実施している。職員から浴室の手すり、椅子の改善提案があり、直ちに具体化している。業務の改善や介護機器の導入のほか、職員の要望があり、資格取得研修を受講できるよう支援している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力やアイデア、また勤務状態を勘案した中で給与水準の引上げ等を図るとともに、処遇改善を目指している。 会社合併を機に子育て支援制度等が創設された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修参加を实行したいが、コロナの影響で思うようになっていない。 今後、状況が改善されたら積極的に推進したい。 開設以来、各種資格取得を推奨しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の勉強会等に参加させたいが、コロナの影響で困難となっており施設内での勉強会を実施している。 また、同業者とは電話での交流であるが近況など情報交換し職員会議で提示している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な説明と丁寧な聞き取りを心がけ、安心した生活環境が保てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な聞き取りに努め、要望等について家族と職員が共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者担当ケアマネ、家族の意向にアセスメントから今必要とする支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという共同体で互いに寄り添い生活する中で、利用者・職員共に支え合い信頼できるよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告、連絡をこまめに行い、情報共有、認識が一致するよう努め、共に支えていけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ感染防止のため面会、外出ができないことから電話での交流に努めている。	コロナ禍のため、面会や訪問客を制限しているため、馴染みの人との触れ合いが少なくなっている。事業所で用事をつくって家族に電話をかけ、利用者にも電話口に出てもらうなどの工夫をしている。地域の診療所での受診時は、近所の方や知人に会う機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仕事の取り合い等が発生するので、当番制を設け声掛けなどもこまめに行い孤立せずに過ごしている。 長寿の方、腰痛持ちの方をいたわる様子も見られ、今後も継続するよう努めていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に、現在利用中の施設職員と連絡を取り様子を伺っている。相談があれば受け入れるなど、心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当が窓口となり、利用者の希望等を職員間で共有し、コロナ禍で思うようにならない面もあるが、できる範囲で希望に添うよう努めている。	利用者一人一人の思いをくみ取るように努め、床掃除、洗濯物の整理、おやつ作りや食事のお手伝いなど、それぞれができることを一緒になってやるようにしている。自宅の様子を見てきたい利用者には、散歩の際に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話、本人からの聞き取りなどから一人ひとりに寄り添い、サービス支援へ反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを密に行い、利用者の状況を常に把握するようにしている。記録も不十分な時があるため、勉強会を行っていく。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当が窓口となり、利用者の様子や希望等をケアマネに伝え、本人との面談を行い話を聞いてケアプランへ反映させている。	6か月ごとに短期、1年ごとに長期の介護計画を見直している。医師の指示や急変があった場合には、随時変更している。ケアマネは、居室担当との意見交換や職員からの聴き取りにより状況を確認し、職員全員でモニタリングを行ったうえで、計画を作成している。家族には、計画を送付し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は不十分で足りない点などもまだあるため、研修などを実施し、職員の意識など統一していきたい。 ケース記録のほかノート等利用し情報共有しながら介護計画へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で利用者ニーズに合うサービス提供に努力している。 多機能化についても職員間で共有しながら支援、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館(2回/月) 地元商店でのおやつ材料、買い物等を楽しんでもらっている。(現在はコロナ禍により中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常受診以外は家族へ連絡してから受診し、結果報告を行い、また、別の医療機関を受診した際は、主治医に必ず報告している。	家族や本人の了解を得てかかりつけ医になっている協力医療機関の国保山形診療所で、利用者全員が受診している。認知症については、市内の専門病院をお願いしている。歯科医も近くにあり、必要な医療の確保が出来ている。神経科や眼科は、市内の他の病院を受診している。コロナ禍のため、受診には職員が同行し、家族に状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化であったり、気付いたときは必ず看護師へ報告し指示を仰ぎ医療機関へ伝達をして、受診・治療、結果についても申し送りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行うようにしている。 入院中も訪問し状況把握に努め、退院時も医療機関からの情報を共有し適切なケアを行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期から終末期には特養等の入所申請を勧めたり、他の医療機関等と相談し引き継ぐなど、本人や家族と相談し支援している。	看取りは行っていない。以前、入居していた方が体調を崩し病院へ搬送され、その後亡くなった事例はある。利用者の体調が夜間にどうなるだろうかとの不安を、事業所では持っている。	いざという時に備え、心構えの意味もあり、職員研修の題材の一つとして、重度化や終末期の対応を取り上げることがを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勤務体制を整え、急変や事故発生に対応できるよう努めている。 こまめに体調の確認をし状況に応じて救急対応出来るよう研修、書類等の整備などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力での避難が難しい利用者対応のため、車イス利用の研修等を実施し、併せて避難場所の確保、職員の初期対応などの研修を行っている。 利用者に対して災害時の対応等について話をしている。	普段から、利用者に地震や火災の発生時、停電時の対応について伝えている。避難訓練は今後実施する予定である。職員がその時どのような動きをとるべきか、地域との協力をどのように求めるか検討している。洪水時の避難場所は、運営推進会議の提案を受け、施設内での待機としている。発電機、反射式ストーブを備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人へ支援を行う場合、声掛けや尊厳を損ねないようケアプランに従い支援を行うことができている。 訴えがある場合は、傾聴を心がけたうえで対応している。	利用者の経験や知識などを活かしたお手伝いのほか、方言や親しみのある言葉遣いなど、利用者の心情を大切にしている。居室入室時のノックやトイレでの声掛けに留意している。バイタルチェックなど、パソコンに蓄積した個人情報、パスワードで管理している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や訴え等、自己決定を支援するとともに利用者の家族を交え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの居場所を確保し、読書など趣味に応じた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝及び入浴後など利用者一人ひとりの服装確認を行い、希望に応じて体調確認をしながらおしゃれできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の清掃、食後の片付けなど、利用者のADLに応じて対応している。希望があった時などは優先して活動できるよう支援している。 日曜日は利用者の好みをメニューに取り入れ、一緒に調理の準備、片づけをしている。	法人代表者の経営する食堂から、日曜日を除く毎日、食事の配送がある。メニューは、地元ならではの季節感のある内容となっている。日曜日は手作りで、利用者の希望や意向に沿ったものを提供している。おやつは事業所内で作っている。誕生日の手作りケーキ、季節に応じたマツタケご飯、七夕のチラシなども提供している。利用者は、作ること片づけることを一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては麦茶、コーヒーなど変化をつけて取ってもらっている。食事は医師の指示のある方は指示に従って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入歯洗浄も毎日行うよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のリズムに合わせて声掛けをしている。トイレでの排泄ができるよう声掛け、支援をしている。	排泄チェック表により、動向を把握し、案内、誘導をしている。8名は布パンツ(パットを併用)やリハビリパンツを使用し、職員は見守り、声掛け程度としている。残る1名は、ズボンの上げ下げなどの介助のほか、夜間にはポータブルトイレを利用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、軽運動等予防に努めている。 午前、午後と一日2回のしらかば園体操などで体を動かし、楽しみながら行うよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴し、入浴日以外は足浴を行っている。 通院等がある場合は、曜日を替えている。	週2回午前中の中の入浴としている。一番風呂や熱めのお風呂の希望にも対応している。職員は利用者とは1対1で、個人的なことや昔の話を聴くこともあり、本人の理解など、とても良い傾聴の機会となっている。スマホでの音楽、歌のほか、昔話で楽しんでいる。シャンプーは個人ごとにあり、水虫薬の塗布も入浴介助に併せて行っている。異性介助は、希望に沿って対応している。季節には柚子湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた毛布、タオル等なじみのものを持参していただき、自宅にいる時の感覚で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し飲み忘れ、飲みこぼしがないように確認している。薬情はファイリングして、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛け、食器拭き、洗濯物をたたむなど、できる限り手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、可能な限り実現に向けた検討を行っているが、コロナ禍の中、ほとんど希望に添うことが出来なかったが、町内の廃校となった校庭に咲く桜を見にドライブした。	コロナ禍でなかなか外出が困難であるが、4月には、ほとんど人が来ない廃校跡地の桜を見物できた。天気の良い日には、周辺での日向ぼっこ、プランターへの水遣りなど、外に出る機会の確保に努めている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、現金は日常的に身近には持たせないことになっていて、希望や本人の申し出内容を都度考慮、検討し能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者、持っていない利用者双方いて、持っている利用者は自由に使用している。手紙については、希望に添って支援することとしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を考慮した内容の制作活動を行い、それらの作品で装飾している。また、コロナ禍に伴い換気に細心の注意を図りつつ、温度、湿度にも気を配った措置をしている。	施設は、白と木目を基調とした色調で、天窗とハキ戸からの自然光で明るく、落ち着いた雰囲気がある。開設4年目の新しい施設であることから、冷暖房機器も十分であり、食堂兼ホールには、ソファ、カラオケ設備、DVDプレーヤーなどの娯楽設備も整えられている。壁には折り紙や行事の写真、訪問者(相撲力士)の写真などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の入れ替りや、様子の変化に合わせたテーブルやソファの配置替え、座席位置の支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの家族からの贈り物や家族の写真飾ったり、小物や置物、希望の器械類を置き、本人が過ごしやすい環境作り心掛けている。	エアコン、空調、ストーブで温度等が管理され、ベッド、寝具、筆筒、ハンガーラックが備え付けられている。寝具の一部や家族の写真、化粧品などを持ち込めば生活を始められる環境にある。入り口には名前と顔写真が掲示され、迷わないように工夫されている。手作りの作品が飾られるなど、清潔で心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や日常の本人の様子などを考慮し、その中でできることを見つけ、可能な限り自立した生活を送れるように、声掛けや促しをして支援している。		